

症例カンファレンス 子宮筋腫

東方医療振興財団

令和8年2月
えみクリニック東大前
菅沼栄

子宮筋腫

性別：女性 54才 165 c m 58キロ

主訴：月経過多、貧血

現病歴：40代、子宮筋腫（10cm）、腺筋症と診断された、月経過多で、貧血（ヘモグロビン値7）、月経痛、経血の血塊が多い、眩暈、脱毛、疲労、動悸、冷えが強い、食欲普通、排便正常、睡眠やや浅い。前から手術と勧められたが迷っている。漢方治療を選択して経過をみたい。

出産歴：33才出産、30代後半一度子宮外妊娠の手術を受けた。血小板50万

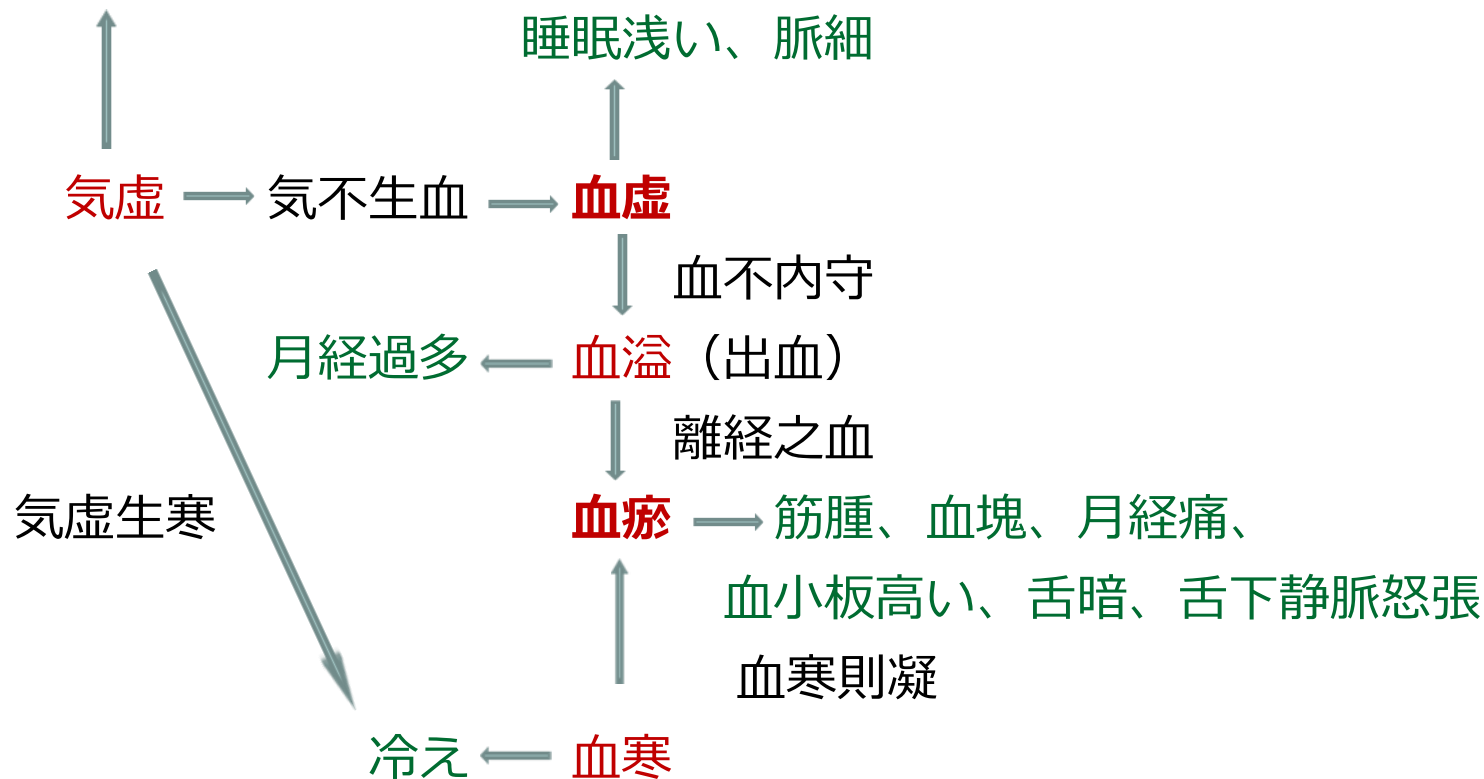
望診：顔色蒼白、舌暗、舌下静脈怒張、苔薄乾。

切診（脈診）：脈左沈細 右滑細

弁証論治分析

疲労、年齢、脈沈

面白、動悸（血不養心）、脱毛、
睡眠浅い、脈細



中医病名：癥瘕

弁証：気血虚弱 血瘀宮寒

論治：益気養血 活血通瘀 暖宮調經

処方：人參 2 黄耆 4 黄精 3 大棗 3 ⇨補気温陽

熟地黄 4 当歸 3 白芍薬 5 枸杞子 4 ⇨滋陰補血

丹参 1 益母草 3 田三七（止血） 3 延胡索 3 ⇨活血化瘀調經止痛

艾葉 3 ⇨暖宮散寒・止血止痛

菊花 3 ⇨疏肝清腦

茯苓 3 ⇨滲湿健脾 寧心安神 赤字（温） 青字（涼） 緑字（平）

参考処方：帰脾湯 芎歸膠艾湯 ⇨益気 補血 止血

（芎歸調血飲第一加減） 田三七（止血） ⇨活血調經

経過：煎じ薬を服用して3か月後、諸症状が徐々に改善され、貧血は7から11に、手術せず、閉経までの4年間は煎じ薬を服用し、子宮筋腫も縮小した。現在は「補中益気湯」×1 「加味逍遥散」×1 「十全大補湯」×1 を服用し続けている。
※この症例は日本の先生と一緒にみた患者である。